大きなけやきの木の下で　絵本のはなしをしましょうよ。

2025 年 12 月のなかごろ　こまばようちえん

　みなさま、こんにちは！
　けやきの葉っぱがたくさん落ち、イチョウもカエデもカキも美しく色を変えています。駒場幼稚園恒例の野菜スープもおいしそうです。もうすぐ、２学期が終わりますね。新しい年になったら、またお会いましょう。
　冬休みにも、ぜひ絵本を楽しむひと時を！良いお年をお迎えください。

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。

●『ゆたんぽさん』
とよだかずひこ・作（童心社）　2025 年/990 円
　みなさんは、ゆたんぽを使いますか？　私がこどものころ、母が冬になると湯たんぽをお布団に入れてくれました。懐かしいです。この絵本の主人公は「ゆたんぽさん」。自分で毛糸でセーターを編んで、お湯を入れて出かけます。そして、おさるさん親子や、ぶたさん親子、にわとりさんとひよこさん親子を温めてあげます。その温め方がとてもいいんです。お

母さんと子どもの間にゆたんぽさんがはさまって、ぎゅっ。ぽかぽか　ぽかぽか。ゆたんぽの温もりが欲しくなってしまいました。この冬、使いまーす！（須藤）

●『十二支のおもちつき』
すとうあさえ・文　早川純子・絵（童心社）　2016 年/1.540 円
「十二支」とはその年を守ってくれる動物の神様です。ある日、貧しいけれど優しいおじいさんとおばあさんのために、ネズミが仲間を呼んでお餅をつく手伝いをしてくれます。その仲間というのが、十二支の皆さん! ♪ぺたぺた　ぺったん　ぺったん　よいしょっ　ゆくとし くるとし こけこっこー♪とお餅をついていると、不思議なことにうすがどんどん大きくなりお餅がどんどん増えてきました。鏡餅がたくさん出来上がりました。一番大きい鏡餅は、十二支が年神様に届けます。おじいさんたちは、村の人たちみんなに、鏡餅を分けてあげました。そう、幸せはみんなで分かち合いましょう。来年はうま年です。
(須藤)

●『クリスマスのみっつのおくりもの』
林明子 作(福音館書店)1987 年/1.815 円
三つのおはなしは、三人きょうだいがそれぞれに主人公。クリスマスにまつわる、とびきり魅力的なオムニバス形式です。サンタさんの到着を待ちきれず、外に探しに出かける「れいちゃん」の話。おじいちゃんの家のクリスマスパーティーに行きたがる「もっくん」のズボンの話。クリスマスケーキに載せるふたつのイチゴを探しにいく「かすみちゃん」の話。(←ふたつのイチゴはパパとママの分)　どの話も、どうなるの？！な展開でひっぱられ、3冊読み終わったあとには、なんとも楽しくて優しい気持ちで満たされる読後感に包まれます。『ズボンのクリスマス(もっくん篇)』ラストページに載っている歌【♪クリスマスのおおさわぎ/かすみちゃん作詞・れいちゃん作曲】は、ぜひ歌ってみられることを心からオススメします。わたしは何度も高らかに歌い(笑)、クリスマス気分アゲアゲに。今度、孫と読んで

一緒に歌おうっと♪みなさんもどうぞ楽しいクリスマスを。（近藤）

●『ちらかしぼうや』
　ジャン・オームロッド 文と絵（童話館出版）2005 年/770 円
「ぬいぐるみは、おもちゃばこにいれようね」「えほんは、ほんだなに」「ごみはくずかごに　いれようね」1 歳くらいの赤ちゃんのそばで、パパが諭すように片付けていきます。ところが、おやおや…。そう、赤ちゃんっていうのは最強の可愛いちらかし屋さん！だからもちろん、一筋縄にはいきません。ぼうやにまんまと翻弄されるまじめなパパと、余裕しゃくしゃくのぼうやの様子をじっくりながめているだけで、自然と頬がゆるんできます。
　子育てって、この絵本のパパみたいに、時に困惑しながらも、「いいとも いいとも」と我が子を安心させ、自分をなぐさめながら（？）、「もういちど」を何度もくりかえすことなのかもしれませんね。（近藤）

② **年中・年長組のみなさんに。**

●『きょうはマラカスのひ』
樋勝朋巳・作（福音館書店）　2013 年 /1760 円
　「クネクネさんのいちにち」のシリーズの 1 冊です。腹巻タイツ？面白すぎます。クネクネさんは、マラカスの練習をしています。難しいリズムなので、特に手と足を一緒に動

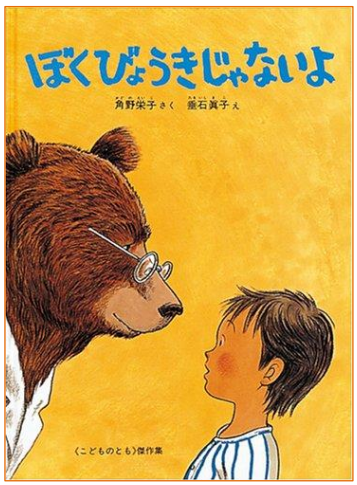
かすのが大変。それでも仲良しのパーマさんとふわふわさんとマラカスの発表会をすることになっているので頑張ってます。
　当日、パーマさんとふわふわさんの発表が終わり、お昼をお腹いっぱい食べて、いよいよクネクネさんの出番……。ところが、二人はお腹がいっぱいすぎて、ぐうぐう　寝てしまいました。クネクネさんはそれでも発表しましたが、足が絡まって失敗。悲しくて２階のベッドで泣いていると、二人が上がってきて、慰めてくれました。クネクネさん、再挑戦！そして大成功。ブラボー！マラカスで、踊りたくなってきました。チャッ　ウーチャチャ　ウーチャッ！（須藤）

●『もぐらけんせつ　りすさんいっかの木のおうち』
長崎真悟・作（童心社）2023 年/1,430 円
　「もぐらけんせつ」シリーズの一冊。もぐらけんせつは、お客様のこころに寄り添いながらしっかりとした仕事をします。「ほりぐちもぐざえもん」という親方が立派。リスさんの家（木）が傾いてしまったので、それをなおしてほしいという注文が入りました。お母さんやこどもたちの希望もちゃんと聞いて、工事に入ります。使う重機が精密に描かれていて、臨場感がありますし、工事の経過が一場面、一場面丁寧に描かれています。木が傾いた理由がお母さんのどんぐりのためすぎ？かどうかはわかりませんが、もぐらけんせつは、食べ物を入れる倉庫も作ってくれました。最後の見返しの「報告書」も楽しめます。（須藤）

●『くんちゃんとふゆのパーティ』
ドロシー・マリノ作　あらいゆうこ 訳　(ペンギン社)2025 年/1210 円

　雪が降りそうな朝。クマのくんちゃん親子はそろそろ冬ごもりです。その前に雪を見てみたいというくんちゃんの願い通り、雪が降り始めました。くんちゃんはおかあさんぐまと一緒に、雪だるまならぬ雪ぐまを作って楽しい時を過ごします。途中で、木にとまっていたことりと話したくんちゃんは、“小さな動物たちは雪が降ると食べものがなくなって困る”ことを初めて知ります。そこでくんちゃんは、庭のツリーの枝や周りに食べものを飾るように置き、ことりたちのためのパーティーをひらきました。そして次は、「さあ、こんどは　ぼくたち　くまのばん(番)だ！」夕飯時に帰ってくるおとうさんぐまをびっくりさせようと、くんちゃんとおかあさんは、パーティーの準備を始めます…。

　心のおもむくままに“誰かをよろこばせたい”と行動するくんちゃんの、なんとまっすぐで尊いことでしょう。(近藤)



●『ぼくびょうきじゃないよ』
角野栄子 さく　垂石真子 絵 (こどものとも傑作集・福音館書店)1994 年/1320 円

　ケンは明日、親戚のお兄さんと出かけることをすごく楽しみにしています。氷を張った池に穴をあけて魚を釣るのです。ところが夕ごはんのあと、急に咳と熱が出てきて、胸もひゅーひゅーしてきました。「ぼくはぜったい　びょうきじゃないんだから。あした　つりにいけるんだから」不安なままベッドに寝ているケンの部屋のドアを、トントンたたく音が。入ってきたのはお母さんではなく、大きな体を白衣に包んだ「くませんせい」でした。くませんせいは「ごろごろざかのくまくんのところ」へ往診予定だったのですが、道を間違えてしまったのです。慌てて帰りかけるくませんせいに向かって、ケンは思いきって頼みます。自分のことも診てください、と。

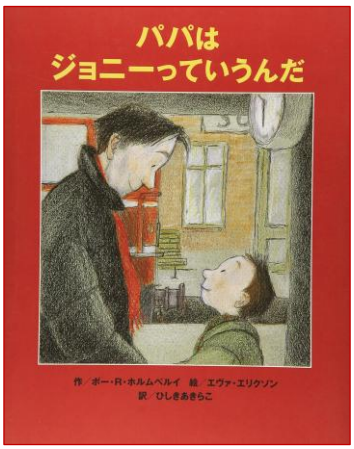
　くませんせいは、ちょっとそそっかしいけれどとても親切で、腕利きのお医者さん。3回の“クマ式治療”のおかげで、翌日、ケンはすっかり元気になりました。

　さて、この絵本を読んだら、冬のうがいは「くましき・うがい」で決まり♪「ゴロゴロ　ガラガラ　ガラッパチ　　ガラゴロ　ガラゴロ　ゴロッパチ　　クチュクチュ　ペッペ

の　クマッパチ」って、３回ね。(近藤)

③　大人のみなさんに。

●『ぐりとぐらのおきゃくさま』
なかがわりえこ・文　やまわきゆりこ・絵　福音館書店　1.１００円/1967 年
　とても有名な絵本なので皆さん、ご存知だと思います。森で雪合戦をしていたぐりとぐらが、雪の上におかしな穴を見つけます。「おとし穴だ」というぐり。でも穴はずっと続いています。そのあとをつけていくと、一軒の家のドアの前で消えていました。「なんだか、みたことのあるばしょだね」「ここ、ぼくたちのうちじゃないか」。私はこの会話が大好きです。赤いズボンをはいた大きな足跡の人はチョコレートとクリームがどっさりのっているケーキを焼いて、慌てて出ていってしまいました。大きな白い袋をかついでね。
　ケーキのいい匂いに誘われておおぜいのともだちがやってきて、みんなでケーキを食べました。ライオン、クマ、ゾウ、カメ、カエル……楽しいおしゃべりが聞こえてきそう。ロングセラーのクリスマス絵本は、ユーモアがあってやさしくて温かい。中川李枝子さん、山脇百合子さんに感謝です。（須藤）



●『パパはジョニーっていうんだ』
ボー・R・ホルムベルイ作　エヴァ・エリクソン絵　ひしき あきらこ訳

（ＢＬ出版）2004 年/1430 円
　ある朝。ティムが、駅のホームでパパが到着するのを待っています。大好きなパパと 1 日デートをするのです。ティムとパパは一緒に映画を観たり、ピザ屋さんでピザを食べたり、図書館で本を読んだり。ティムはいろんな所で周りの人にパパを紹介します。「ぼくのパパだよ。パパはジョニーっていうんだ」
　生きているといろんなことがありますよね。文中では語られないけれどきっと、ティムのパパとママはワケあって離婚したのでしょう。それでも二人は我が子を一番に考え、ティムを深く愛していることが痛いほど伝わってきます。わたしは何度読み返しても、ラスト近くのパパの言葉に胸が熱くなります。まるで一篇の秀逸な短編映画。スウェーデンの絵本です。（近藤）

●『おせち』
文・絵 内田有美　料理 満留邦子　三浦康子 監修
（福音館書店）2024 年/1100 円
　月日が流れる早さを嘆くわたしに、「一年経つのが年々早く感じられるようになるのは“年をとった”証拠よ」と教えてくれた先輩はどなただったかしら。ああ、きっとこの調子で、これからもあっというまの 10 年なんだろうな（冷や汗）。というわけで、新年元旦「おせち」の絵本。プロローグには「あたらしいとしをいわう　うれしいりょうり」「みんなのねがいがこめられています」…黒豆に始まり煮物まで、それぞれの料理への「願い」の言葉に心休まります。たとえば煮物は「はる　なつ　あき　ふゆ　かぞくなかよく　けんこうで　たんぼやはたけも　ゆたかにみのりますように」…
　写真を超えた絵！？は、ひたすらに美しく、見返すたびに心底ウットリ。目にも美味しくてたまらない絵本です。アーサー・ビナードさんの訳で海外にも紹介されています。
　みなさま、どうぞよいお年を。（近藤）

・絵本はざっくりと次のように対象年齢にそって紹介していきます。ただ対象年齢はあくまで目安です。お子さんが興味を示した絵本、お子さんに読んであげたいなと思った絵本を見つけたら、手にとってみてください。
①　たんぽぽ組・年少組のみなさんに　②年中・年長組のみなさんに　③大人のみなさんに

- 「重版未定」の絵本も積極的に取り上げます。図書館に入っていますし、リクエストが多くなると復刊される可能性もあります。
- ここでご紹介した絵本は藤井チズ子前理事長からいただいた寄付金で購入し、「藤井文庫」として本の部屋に所蔵しています。移動図書館でお子さんが借りていくかもしれません。背表紙の藤色の丸シールが目印です。